

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生理系分野		婦人科腫瘍病態生理学特論Ⅰ・Ⅲ				本郷 淳司	
開講年次		共通／専攻／選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
(1) 婦人科がんの理解を深めるため、その診断、治療、治療後フォローアップのEBMを理解し、自ら方針決定ができる力を身につける。							
(2) 婦人科がんに関する研究の方法論を理解し、研究の結果を解釈する。							
授業到達目標							
(1) 提示症例、担当症例における診断、治療法を理解し説明できる。							
(2) 指導医と共に婦人科がんの診断、治療方針を検討し、カンファレンスで発表できる。							
(3) 婦人科がんの取り扱い規約、治療ガイドラインを読み、治療の総論、各論を解釈できる。							
(4) 婦人科がんに関する最新の論文を読み、抄読会にて発表し、理解した内容をまとめてレポートを提出することができる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎週	木	15:00-16:00	本郷 淳司	講義	[抄読会] [症例検討会] [研究検討会]	手術予定症例、難治症例などの治療カンファレンス、トピックスの抄読会にて討論する。 [場所:総合医療センター5階産婦人科医局]
評価方法							
【特論Ⅰ】							
(1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。							
(2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。							
【特論Ⅲ】							
(1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。							
(2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。							
ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文(症例)であること。							
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。							
※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43頁:単位履修方法参照。							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
紹介論文の要約について、添削して返却する。							
教科書							
ISBN-9780323400671, Clinical Gynecologic Oncology (9th ed.), P.J. DiSaia, W.T.Creasman, R.S.Mannell, et al., ELSEVIER (Mosby, Inc.), 2018							
参考書							
ISBN-9784307301336, 子宮頸癌治療ガイドライン(2017年度版), 日本婦人科腫瘍学会, 金原出版, 2017							
ISBN-9784307301381, 子宮体がん治療ガイドライン(2018年版), 日本婦人科腫瘍学会, 金原出版, 2018							
ISBN-9784307301213, 卵巣がん治療ガイドライン(2015年版), 日本婦人科腫瘍学会, 金原出版, 2015							
準備学習(予習・復習等)							
(1) 講義ごとに紹介する文献・論文を、次回講義までに読んでおくこと。							
(2) 講義で学んだ内容を該当するガイドラインや文献を再読して確認すること。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
課題を探究し、仮説立脚、検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。							
注意事項・メッセージ							
大学院生として、婦人科腫瘍学の知識と実技の習得、また基礎実験に熱心に取り組んで下さい。							